

審査の結果の要旨

論文提出者氏名 福井 恒明

本論文はまず最初に地区イメージ形成の新たなモデルとして「グレイン論」を提案し、このモデルに基づいて「歴史的イメージ」を対象とした街路イメージならびに地区イメージに関する具体的な分析を行い、地区イメージ形成の要因について定性的・定量的な分析を行っている。

本論文の成果として評価しうる点は以下のようにまとめられる。

(1) 「グレイン論」は、人間の環境認識単位を「グレイン(粒) = 意味を持ったひとまとまりの実体あるいは現象」と仮定し、グレインの集積によって地区イメージが形成されるとするモデルである。本論文ではモデルに関する認知科学的裏付けが弱く、今後その点の補強が望まれる。しかし、景観評価に関する既存研究の多くにおいては評価要因を建物のファサードや舗装などの実体的要素などに固定しており、自ずと分析対象とするイメージ内容にも制約があったことに比べ、「グレイン論」では対象とするイメージが分析者によって設定可能である点、対象とする要素や地区のスケールについても可変である点などから、より地区イメージ形成の本質に関わる汎用性の高いモデルであると評価できる。

また「グレイン論」は個別のグレインに対する評価が集積することによって地区に対する評価が形成されると考える立場であり、既存研究に比べてより人の環境認知に近いアプローチであると評価することができる。

(2) 次に「歴史的イメージ」を対象として、グレインの定義と分類(主要グレイン3種、補助グレイン2種、中立グレイン2種、阻害グレイン4種の11種類)を行い、これに基づいて具体的な街路イメージ分析を試みている。グレイン分類は定性的であるが、既存研究に比べて簡易な判別方法で定量的分析を行っている。ある街路が歴史的イメージを有すると判断されるためのグレイン構成比の条件を示し、また、歴史的イメージの強さを沿道のグレイン構成比から計算する式(歴史性印象評価予測式)を提案するなど、明解な分析結果を示している点が評価される。

(3) 地区イメージの分析においては、地区内を回遊する状況を室内で再現する実験を行い、主に回遊経路と地区イメージとの関係について分析を行った。その結果、経路と地区イメージが密接に関連し、経路となった街路ごとのイメージ評価よりも地区イメージ評価の方が強調される傾向があることを示した。また、ある地区が歴史的イメージを有すると判断されるための経路評価の条件を定量的に分析した。地区内の回遊に着目することは地区イメージ形成の初期段階を論ずる上で有効なアプローチであると思われるが、これまでこの視点に着目した研究はなく、本論文がその視点に立った分析を行い、定量的な成果をあげたことは評価に値する。

(4) (2) (3)の成果は、「グレイン論」の有効性の検証としては十分とは言えない。しかし、「歴史的イメージ」に限定されているとはいえ、グレインの分類・構成と歴史性のイメージとの関係が明確に示されており、同様の手法によってさまざまなイメージの分析が可能となると判断される。従来の研究が厳密な都市構成要素の測定を必要とする割に適用範囲が限定されていたことを考えれば、「グレイン論」はより簡便かつ本質的な都市イメージ分析手法確立への試みとして高く評価できる。

(5) 以上の成果は分析論的な立場からの新規性に留まらず、まちのイメージ形成を目指すまちづくりの現場に直接適用することが可能であり、計画論的な有用性を合わせ持つ。これまでまちづくりの現場では、街並の整備水準とその効果に関する議論が不十分であり、本論文の成果は「まちのイメージ形成」というまちづくりの本質的な目的達成につながる極めて有用な知見であると評価できる。

本論文は、第一に、都市の地区イメージ分析の汎用的かつ本質的な枠組みとして「グレイン論」というモデルを提案した点、第二に、歴史的イメージを対象として街路・地区スケールでの定量的な分析を行い、地区イメージ形成について重要な知見を提案した点で高く評価することができる。そして、これらの成果は都市イメージに関する研究の新たな展開の可能性を十分に感じさせるものであり、同時にまちづくりの実務における活用が期待される。

よって本論文は博士(工学)の学位請求論文として合格と認められる。